

『三月の風 (03/01)』

三月の風は冬の
名残なのでしようか
冷たく申し訳なく
微かに吹いて去っていきます
裸木々の雑木林の中を
家々の細い小径を

きつと小春日の陽の
温もりを
北風も浴びたいのでしよう
きつと春の訪れを
私と同じように
北風も見たいのでしよう

緑めく雑木林の躍動を
梅花の香りを
冷たい風に包んで
北風は名残惜しく
吹き去って行きます
地上はもう春なのですね

『猫 (03/02)』

猫が私を見ている
不思議そうに首を傾けて
早朝の窓の外で
寒さの中で
部屋の私を見つめている

私を遊びへと誘いに来たのかも
いや私の形相が可笑しいのかも
じつと疼きに耐える私の身体を
彼女はもの珍しそうに見ている

猫が私を見ている
不思議そうに首を傾けて
早朝の窓の外で
寒さの中で
部屋の私を見つめている

『旅人 (03/10)』

地球の旅人よ
宇宙の一部始終を

話しておくれ
眠れる民の耳元へ

それは悲しい唄なのか
それは美しい物語なのか

宇宙に生きを受け
宇宙によって消され
幾多の涙さえ宿ることを
許されなかった民の耳もとへ

地球の詩人よ
宇宙の一部始終を
さあ話しておくれ
われら眠れる民の耳元へ

それは悲しみの物語なのか
それは美しい唄なのか

かってこの宇宙に生きを受け

しかしてその存在の刻印すら
忘却の彼方へと消された
今に眠れるわれらが耳もとへ

宇宙の一部始終を唄っておくれ
そは悲しみの涙なのか
そは美しい涙なのか
地球の詩人よさあ聞かせておくれ

『雨と林 (03/15)』

雨煙りが視界を隠す
このとき現るは
亡霊の霊気か
怪鳥が叫び蛇が蠢いている
霧はますます濃くやがて
雑木林の中は異次元

待て！ お前は何処へ行く
人間の分際で
ここはおまえたちの世界ではない
霧に垣間見る木立が
ざわざわと騒いでいる

その肌を雨に光らせ
醜い亡霊が姿が浮かんでいる
狂気が女の苦痛顔
自分を撃った男の顔

雨煙りに視界を隠した
雑木林の中は
亡霊が世界
垣間見ゆる樹木のこぶしから
大地が吸い込んだ恨みは
湯気となって雨煙りに融けている

『春の光 (03/31)』

春の陽光を黒くもが隠し
やがて雨が降るのだ
何が面白くて雨が降る
何が悲しくて雨が降る
春の陽だと云うに
雲は何が悲しいのか
見ろよ
黒いアスファルトの上で
お前の涙が右往左往している
流れ行く場所を掴みかねて

そう昔は違った
大地がお前の涙を
吸い込んだものだ
何が悲しくて雨が降る
雲は何が悲しいのだ
春の光を隠して

『四月 (04/11)』

陽光は暖かいですか
陽光は眠たいですか
陽光は気怠いですか
陽光は春の風ですか

春です ね 小川の水は
音を発てて流れています
春です ね 桜の花は
満開に咲いて空を染めています

光は締め切った雨戸を
開けてくれます
光は拗ねる心を
解きほごしてくれます

陽光は春の風ですか
陽光は気怠いですか
陽光は眠たいですか
陽光は暖かいですか

『太陽 (04/13)』

裸木の雑木林を通して
巨大な火球が昇っている
青色空を背景にして
オレンジ色に燃えた太陽が
空の中へ昇って行く

私はどうして生きている
宇宙に有って生き死ぬなかを
私はいつたい何なのか
吐く息も白く
立ち上る大地の湯気に包まれて
佇んでは問うている
私はいつたい何なのか
宇宙に有って生き死ぬなかを
何故に生きている

裸木の雑木林を通して
オレンジ色に燃えた太陽が
空の中へ昇っている
地上を真っ赤に染めて
ぐいぐいと昇って行く

『太陽 (04/19)』

太陽は昇り
新しく始まった日を
照らし始める
今日という日の大地へ
光の投射を行う
森も川も畑野も目覚め
住む生命が動き出し
鳥は囀りだし
リスは大樹を駆け巡り
草花が咲く
蝶がひらひら飛び
生き有る物は
太陽の恵みをそっと捕る
が人間だけは違っていた
栄華のためにぐいと盗った
生きるためになく
利益のために止めども無く
この地球という大地の
恵みを地下まで盗った
盗りきつたら
人は何時しか宇宙へ出て
他の惑星の富を
きつと盗り尽くすでしょう

栄華と利益のため
人は際限なく宇宙を
生きるのでしょうか

太陽が沈み
今日という日が暮れかかります
森も川も山も畑野も
ゆっくりとゆっくりと
西陽に黄金と輝きながら
闇へと隠されていくのです
鳥は一日の出来事を喋り
リスは木穴の中で家族揃って
輪になり眠りに就きます
草花も頭を垂れて
生き有る物は
一日の疲れを癒しています
が盗つと人間だけは
違っていました
摩天楼の塔を建て
不夜城の街を造り
そのどぎつい色のネオンが
人と人を盗つとにし
栄華へと彷徨っております

『春 (04/22)』

春に吹く風は
空の中で吠えに吠え
街の上空を通って行く
野畑を吹いていく
きつと冬の冷たさを
払おうとしているのでしょうか
きつと地上のゴミを掃き
大地を清めているのでしょうか
春に降る雨は
温もりを持ったしとしと雨です
凍りついた大地を
解かすように
草木にも暖かく湿っています
春に咲く桜は
青空を背景に咲き誇っております
淡いピンクが一片一片に
人の来し方が浮き出しています
人の涙がにじんできます
春に吹く風は
空の中で吠えに吠え
地上のすべてを吹き払っています
桜吹雪が渦を巻いています

End all 1996/04